

新型

マーク



新型マークの確定ドローイング。最近のトヨタ車に共通の大型ヘッドランプとボリュウムのあるボンネットフード・サイドラインには、新型セルシオを彷彿とさせるものがある。



トランクリッドは左右独立式のリアコンビランプに沿って開く。また、ランプ中段にはボディ同色のガーニッシュが装着され、リアビューのアクセントとなる。

足元をキレイに見せる4つのホイール



15インチ樹脂フルキャップ
(グランデ、グランデFourに標準
装備)



15インチアルミホイール
(グランデG-Fourに標準装備 /
グランデ、グランデFourにオプ
ション設定)



16インチアルミホイール
(グランデG、グランデG-tbに標
準装備)



17インチアルミホイール
(グランデR-S、グランデR-V
に標準装備)

OKだ。

具体的には、量販グレード「グランデ」(2リットルと2.5リットル)、上級グレード「グランデG」(2.5リットルのみ)、そしてイメージリダーの「グランデG tb」(2.5リットルターボ)から構成。内外装に高性能なイメージを持たせた「グランデiR S」(2.5リットル)と「グランデiR V」(2.5リットルターボ)もラインナップされるので、ツアラー消滅の第一報を聞いて落胆したユーザーも安心してOKだ。

もともとニュースになりそうなのがグレード展開の見直しだ。ナント、先代モデルで設定され、現行にも踏襲されたスポーティシリーズ「ツアラー」が姿を消す。これにより、全グレードが「グランデ」名を掲げ、イメージが統一される。

また、スクープ班はあらゆるルートからガード突破を狙ったが、容赦なく迫り来る締め切りに追われるばかりで、一向に成功の兆しが見えなかった。だが、校了直前になって詳細データの入手に成功！ 余すところなくここで紹介しよう。

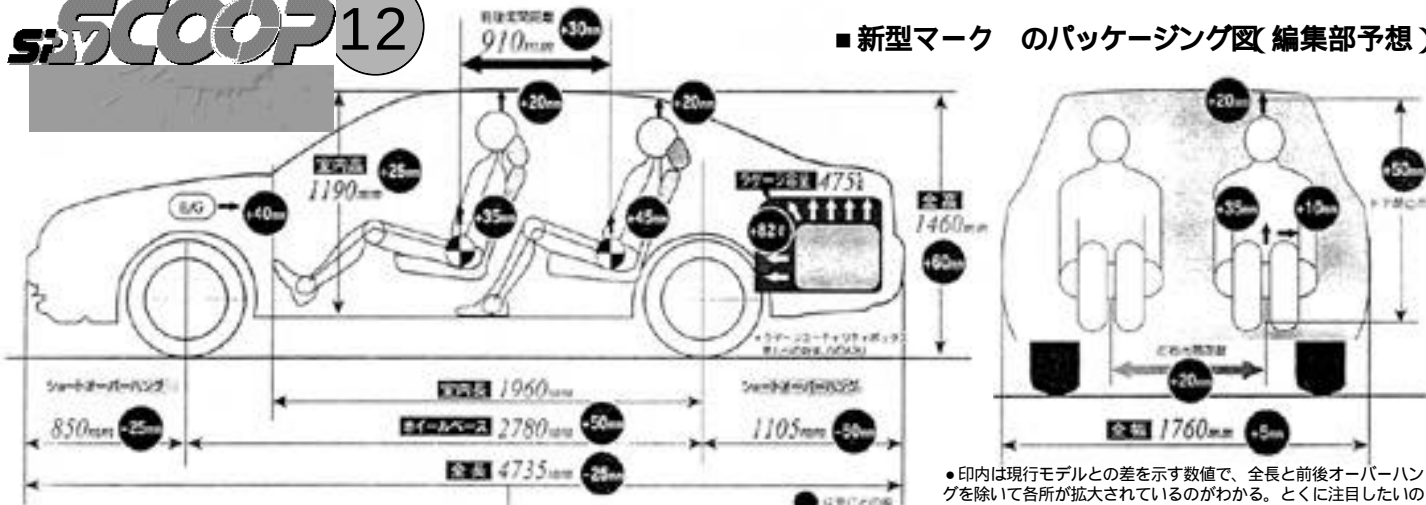
新

型マークの情報収集は、先に発表されたセルシオ以上に骨折リだった。

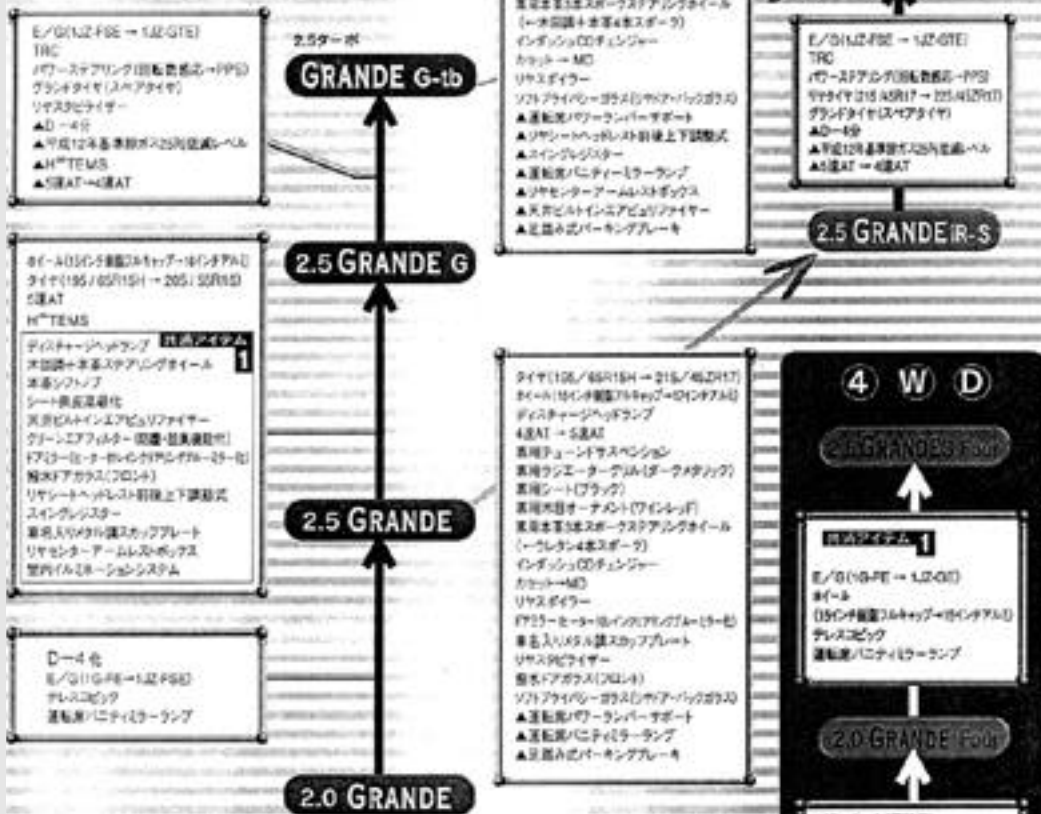
を
秘
す
る



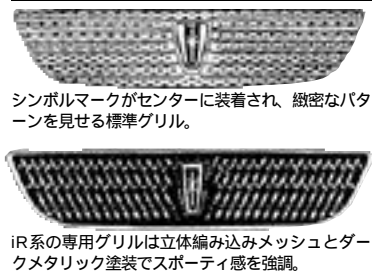
■新型マーク のパッケージング図 (編集部予想)



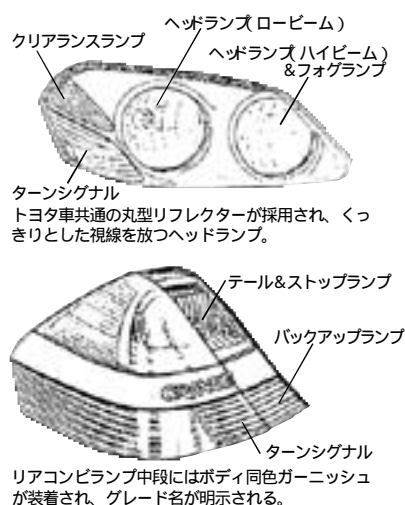
■新型マーク のグレード別装備 (編集部予想)



性格に合わせて表情が異なるフロントグリル



前後コンビランプは立体感あふれる造型だ!



は「セダンボディに身してツアラー」の名

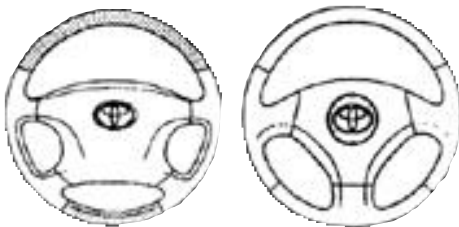
バリエーション展開が把握できたところで、次に搭載エンジンを見ていきましょう。モデルライフを通して終始、高い人気を誇るのが手頃感の強い1.8L 16V F型2リットル直6ユニットだ。すっかり熟成の域に達しており、現行モデルと変わらない160ps/20.4kg/mを発揮。ちなみに10.15リットル燃費は現行比プラス0.2リットルの11.8リットルに。

メインエンジンとなる2.5リットル直6は直噴D-4技術が織り込まれ、1JZ-FSE型に進化。性能スベックは現行1JZ-G型と大差ないが、10.15リットル燃費が現行モデルに比べて約2リットルも改善され、12.5リットルまで伸びる。なお、このD-4ユニットはFRモデル専用で、4WDには現行と同じ1JZ-G型が引き継ぎ搭載される。また、最高峰グレードに載る1JZ-GT E型2.5リットルターボも現行モデルと同じものだ。なお、3リットルはモデルチェンジを機に消える。このほか、プラットフォームと前後ダブルウィッシュボーン式サスペンションも「新され、操る楽しみ」と「しなやかな走り」の両立が図られる。

ライバル車 高級感ある

9月号でスクープしたとおり、ツートンカラーと各スイッチ類の整ったデザインがインパネに高級感をもたらしている。ドアまで続く木目調パネルと、見やすい位置に設置されたナビ画面にも注目!

ステアリングホイールも 2種類ラインナップ

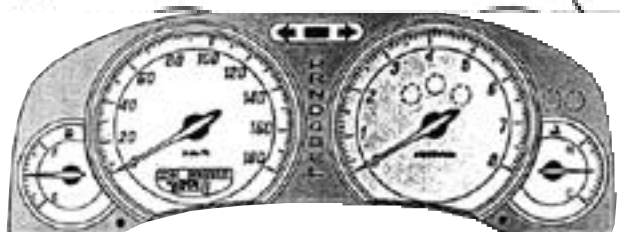


4本スポーク仕様はR系を除く全車に標準装備。グランデGとG-tbは木目調+本革コンビタイプだ。
iR系にはスポーティな3本スポーク仕様を採用される。もちろん、材質は本革巻きだ。

ゲート式 シフトは AT全車に 装備

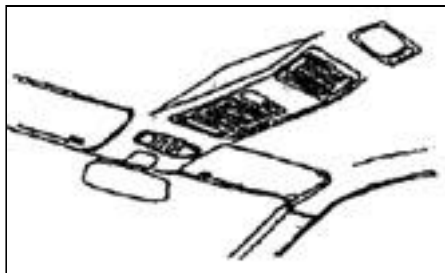


白色LED採用の 新オブティロンメーター



赤い指針と白色のメーター盤が鮮やかなコントラストを作り出すメーターパネル。丸い金属調リングが作り込まれた印象をかもし出す。

エアピュリファイヤーは 天井ビルトイン式だ!



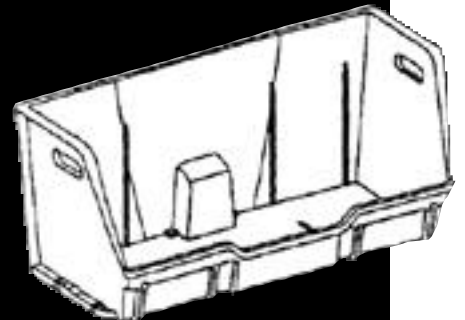
グランデG系に標準装備される天井ビルトイン式エアピュリファイヤーは、LED光源を使った光触媒作用で脱臭&殺菌を行う先進装備。コンパクトかつ低騒音化を実現したことにより、オーバーヘッドコンソールへの装着が可能となった。このLED(アンバーイエロー)はセンターコンソール付近を照らし出すイルミネーション機構も備えており、まさに一石二鳥な装備だ。ただし、ムーンルーフ装着車にはつかないので、どちらを選ぶか、よく吟味しよう。



工夫がいっぱいの トランクスペース

目新しい装備が盛り込まれたトランクスペースは最大475Lの大容量を誇る(後述のユーティリティボックス装着車を除く)。新装備その1はトランクスルーだ。アームレスト部がトランクと直結するのは他車でもおなじみだが、新型マークではスライドドアが設けられた。新装備その2はトランク奥のユーティリティボックス。トランクスルーからもアクセスできるほか、仕切板を設けることで倒れやすいものも収納することが可能だ。

ユーティリティボックス





■新型マークIIのエンジンスペック（編集部予想）

	2.5ℓ直6ターボ (1JZ-GTE)	2.5ℓ直6・D-4 (1JZ-FSE)	2.5ℓ直6 (1JZ-GE)*	2ℓ直6 (1G-FE)
最高出力 (kW(ps)/rpm)	206(280)/3300	147(200)/3000	←	118(160)/3200
最大トルク (N・m(kg-m)/rpm)	378(333)/4300	250(233)/3300	255(223)/4000	200(20.4)/4400
10・15モード燃費 (km/ℓ)	9.4	12.5	9.2	11.8

※4WD専用

■新型マークIIとライバル車のサイズ比較（編集部予想）

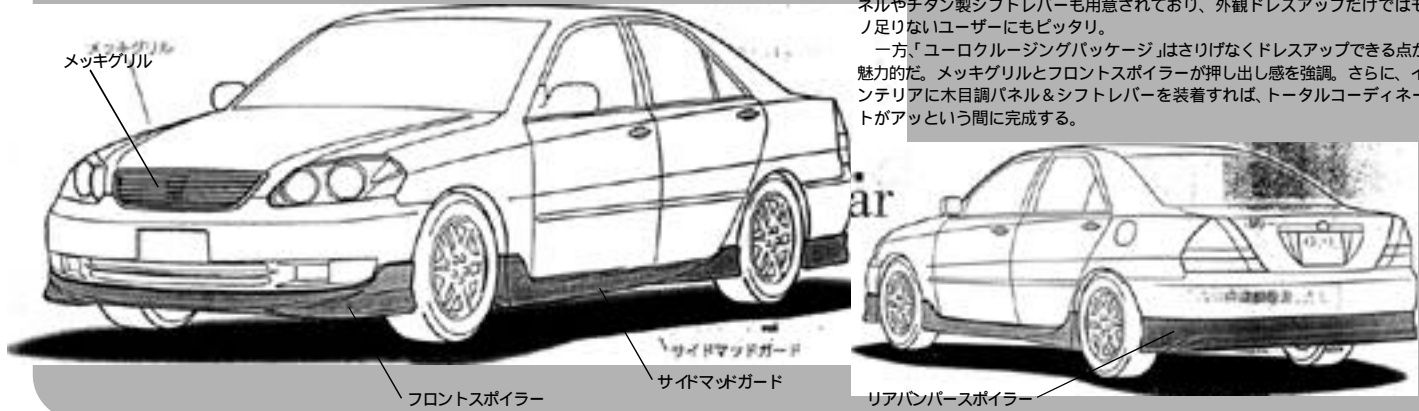
	マークII	ローレル	セフィーロ	スカイライン	ダイヤモンド	現行マーク（参考）
全長 (mm)	4735	4755	4785	4705	4805	4760
全幅 (mm)	1760	1730	1780	1720	1785	1755
全高 (mm)	1460	1400	1440	1375	1435	1400
室内長 (mm)	1960	1980	2035	1875	2030	1990
室内幅 (mm)	1480	1440	1485	1440	1490	1475
室内高 (mm)	1190	1135	1190	1120	1160	1165
ホイールベース (mm)	2780	2720	2750	2665	2720	2730
最小回転半径 (m)	5.3	5.2	5.4	5.1	5.6	5.1
トランク容量 (ℓ)	475	460	540	423	470	—

エアロスポーツパッケージ
Aero Sports Package

純正アクセサリーには2つの
推奨パッケージもあるゾ!



ユーロクルージングパッケージ
Euro Cruising Package



デビューと同時に純正アクセサリーも数多く発売される。例によって、メーカー側からはあらかじめコーディネートされたパッケージが提案され、センス良くドレスアップを楽しみたいユーザーへの売り込みが行われる。

よりアグレッシブな雰囲気を楽しみたいユーザーには「エアロスポーツパッケージ」がオススメだ。フロントバンパーをエアロタイプに交換し、ボディ下部にスポイラーを加えれば格段にボリュームが増す。また、内装用にメタル調パネルやチタン製シフトレバーも用意されており、外観ドレスアップだけではモノ足りないユーザーにもピッタリ。

一方、「ユーロクルージングパッケージ」はさりげなくドレスアップできる点が魅力的だ。メッキグリルとフロントスポイラーが押し出し感を強調。さらに、インテリアに木目調パネル&シフトレバーを装着すれば、トータルコーディネートがアツという間に完成する。